被災地派遣レポート＜第１８回＞

交通局総務部経営管理課　齋藤　慎太郎さん

■　現地での活動

５月３日から８日までの６日間、被災地支援の岩手県第８陣として陸前高田市に派遣されました。

１日目の夜８時頃、上司に見送られて都庁を出発。先ごろ派遣された同僚から「現地の居住環境はかなり悪い」という話を聞いていたため、車内では緊張と興奮でほとんど眠れませんでした。

２日目、翌朝４時半に寝床となる大船渡市合同庁舎に到着。６時から引継ぎがはじまり、７時半には陸前高田市給食センターに移動、その日の業務がはじまりました。ここでは各避難所への支援物資の搬入・搬出を行ったのですが、朝早い時間に自衛隊のトラックが続けて到着、米や水の搬出が集中し、力仕事に慣れない私はとまどいました。それでも、現場を仕切る市職員の方から、「ラインを組む」、いわばバケツリレーの要領で米・水をトラックに乗せる方法を聞き、息を切らせながらもなんとか終了しました。その後は、大型トラックや、個人の支援者からの物資の搬入が続き、この日はあっという間に終わりました。硬い会議室の床に敷かれた寝袋も気にすることなく、すぐ眠りにおちてしまいました。

■　日々の仕事に慣れ

３日目も午前は搬入・搬出作業でしたが、だんだん仕事の要領を得て、多少の余裕がでてきました。搬入・搬出の合間には、地元のボランティアの方から震災当日の状況をお聞きしましたが、あまりの壮絶さに言葉を失ってしまいました。

この日の午後は、支援物資をお送りいただいた方の氏名等データを入力し、御礼状送付の準備を行う事務作業を任されました。入力データは、物資をいただいた方の氏名等をエクセルに入力していくものでしたが、そのままでは氏名の重複等があり、御礼状送付に差し支えるため、重複チェックや御礼状送付済みのチェック、御礼状印刷画面にリンクを貼る、などの簡易データベースもどきを作成し、最終日には、そのマニュアルを作って後陣への引継ぎを行いました。その後、そのデータベースがうまく活用されていることを聞き、安心しました。２日目～５日目までの全日、仕事が固定されていたので、後半はスムーズに業務をこなすことができたと思います。

■　市内の惨状

２日目に、市職員の方から「市内の惨状を目に焼き付け、それを多くの人に伝えて欲しい」というお話がありました。仕事に慣れた３日目以降、市職員の方が我々を乗せ車で案内してくださいましたが、陸前高田市は、中心となる公共施設等がほとんど海に近い平地に位置していたためか、テレビなどで見ていた状況を遙かに超える惨状が目の前に広がっており、おもわず目を背けたくなりました。市職員の方が、「あのあたりに私の自宅があったのだが…」と、指差した場所はコンビニと思われる鉄骨以外、何も残っていませんでした。市街地は重機などが入り、がれきの撤去が進んでいるようでしたが、町から郊外へ進むと、瓦礫が散乱したままで、何も手が付けられていない状況でした。合同庁舎に戻る際、大船渡の市街地を通りましたが、国道を境に海側はかなりの被害で、こちらもまだ手が付けられないようでした。

■　被災地派遣を終えて

６日目の早朝に引継ぎを終え、８時半には帰りのバスに乗り込みました。夕方、都庁に戻ると、上司や同僚の姿があり、ここでようやく、ああ終わったんだ、とホッと息をつくことができました。

短い期間ではありましたが、このような貴重な経験ができたことは自分の中でも非常に勉強になりました。今後も被災地の復興のため、その経験を活かせるよう、微力ながら自分なりにできることを考えていきたいと思います。

また、ＧＷ中の派遣にもかかわらず、「都職員として一生懸命頑張って来て！」と快く送り出してくれた家族と、陰で支えていただいた上司、同僚の皆様、また、現地で一致団結して支援を行った派遣第８陣の皆様に、あらためて御礼を申し上げます。

＜支援物資搬出の様子＞

＜全く手がつけられていない陸前高田市小友地区＞